琉球病院 Monthly

独立行政法人
国立病院機構　琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.119
2024. October

発行者　琉球病院事務部長
池間　忍

基本理念　この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

障害者虐待防止研修の開催

療育指導室長　**金城　安樹**

7月30日（火）15：00～16：00、当院にて院内職員を対象とした障害者虐待防止研修を開催しました。沖縄県社会福祉士会の代表理事 会長の石川和徳氏をお招きし、精神保健福祉法改正に伴う虐待防止の体制整備をテーマにご講演を頂きました。精神保健福祉法の改正（令和6年4月1日施行）に伴い、精神科病院に虐待防止の措置が義務付けられました。石川氏からは虐待防止の措置及び通報の義務化、病院職員としての役割の理解についてお話いただきました。障害者福祉施設従事者による虐待は、教育・技術的な問題が最も多く、続いてストレスや感情コントロール、倫理観の欠如、組織風土、人員の問題等があげられるとの事でした。基本となる事は相手を思いやる姿勢を中心に、個人の権利や自己実現の保障に向けて支援していく姿勢が問われているものと感じました。また、虐待が疑われる事案が発生した際、通報が義務化されています。未然防止の観点からも虐待は「不適切な支援」が連続したものとして捉え、虐待の芽がある前提で改善していく事の重要性をあげられていました。職員同士での指摘や、どうしたら不適切な対応をとらないか話し合い職員全員で取り組む等、風通しの良い職場づくりが重要となります。

当院では虐待防止委員会を毎月開催し、不適切な事案の検証、研修の企画運営、セルフチェックの実施及び分析、掲示等を行っています。昨今の国立病院機構の障害者虐待に関する報道を受け、国立病院機構全体の課題として、求められる質の高い支援及び組織性の両面に着目し、職員一丸となり患者サービスの向上に向けて取り組む事が求められています。

● 地域医療連携室だより

精神保健福祉士　　伊波　勤子

地域医療連携室（相談室）では、外来の受診相談・入院相談の受付窓口となっています。患者さんやご家族さんへの医療・福祉の相談、外来や入院患者さんに対する日常生活相談、経済的問題の相談等、治療上に関わる諸問題に対してお応えしています。何かお困りなことがございましたらお気軽にご相談ください。
受付時間平日9：00～17：00となっております。

院　長

ふくじ　やすひで
福治　康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本森田療法学会理事。
日本病院・地域精神医学会評議員。
琉球大学医学部　臨床教授。

診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- クロザリル外来
- アルコール依存症等外来

病床数　353床

・精神（一般精神・クロザピン専門・精神科救急）	151床
・アルコール依存症	44床
・児童思春期ユニット	4床
・重症心身障がい	90床
・医療観察法	37床

那覇市からのアクセス

路線バス　那覇BS（下り）または名護BS（上り）より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分

自動車　那覇市から40分沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

お問い合わせ

時間　8:30 ～ 17:15（土・日・祝日・年末年始以外）
TEL　098-968-2133（代）
内線　231・234

地域医療連携室（直通）
TEL　098-968-3550
FAX　098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長　木田　直也

クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では 2010 年 2 月からクロザピン（CLZ）治療を開始し、登録症例数は延べ 422 例になりました。2024 年 8 月の CLZ 登録症例は 2 例で、いずれも他の精神科病院に入院中の紹介患者さんでした。CLZ 導入前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ 継続例では問題行動も消失、もしくは軽減し、ほとんどの症例で隔離や身体拘束は解除できています。週に 3 回の CLZ 専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。当院での CLZ 治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル / クロザリル適正使用の流れ (https://www.drs - net.novartis.co.jp/dr/products/product/clozaril/point/) でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

医療安全管理室のご紹介

医療安全係長　宮城　尚子

琉球病院では医療安全管理室を設置し、医療安全管理委員会の方針に基づき医療安全推進活動を行っています。患者さんに安全な医療サービスを提供するために、病院全体の安全管理を担う部門です。安心、安全な医療の提供のため各部署の医療安全推進担当者や職場長と連携し組織横断的に活動しています。主な活動といたしましては、インシデント事例の改善対策検討や、病棟ラウンドを実施し現場へフィードバックすることで事故防止へつなげています。

さらに、医療に関する意見や相談に迅速に対応し、患者さんやご家族と医療者の信頼関係の構築及び施設の安全対策の見直しにも活用していくことを目的として「患者相談窓口」を設置しております。患者さんが安心して治療に臨んでいただけるように医療に関する疑問や不安など様々なご相談をお受けしております。

クロザピン治療病棟ご紹介

東Ⅱ病棟　副師長　玉城　友也

薬物療法の進歩により統合失調症の大部分は良くなる時代となりました。しかし、お薬を飲んでも思うように症状が改善しない治療抵抗性統合失調症と呼ばれる統合失調症があります。治療抵抗性統合失調症とは、「十分な薬物療法を行っても治りにくい反応性不良」、「副作用のために薬を増量できない、中止しなければならない耐用性不良」という 2 つのタイプがあります。このような治療抵抗性統合失調症を対象として、有効性が認められている薬がクロザピンです。

当病棟は、平成 27 年に日本で初めて治療抵抗性統合失調症のクロザピン治療専門病棟とし開設され運営しています。

病棟医を中心に多職種が協働し、精神症状で困っている患者さんやご家族が安心できる治療・看護を提供しております。クロザピン治療はクリニカルパスを用いて、入院期間 6 ヶ月を目標に掲げ、約 1 か月に 1 回のケース会議（患者さん･ご家族･医師・看護師・PSW・退院先の施設・地域の役所関係者等）を開催しています。患者さん・ご家族を中心に話し合いをしながら、計画的な治療及び積極的な退院支援を進めています。患者さん・ご家族にとってより良い療養環境を整え、地域移行支援に向けて努力して参ります。

災害対策委員会の取り組み

心理療法士主任　前上里　泰史

先日発生した能登半島豪雨で被災された皆さまへ、心からお見舞い申し上げます。

全国各地で大雨による被害が起きる中、今年の沖縄は台風が来ることが少ない年です。9月に台風が立て続けに接近し、それに伴い、当院の災害対策委員会では断水時の備えについて話し合いました。その内容をご紹介いたします。

断水が起きることによって各部署でどんな影響があるか検討した結果、トイレの使用ができなくなる、飲み水不足、服用時の水不足、断水が数日続けば入浴ができなくなる、検査科ではすべての検査ができなくなるなどの意見があがりました。これらの事態への備えについては、電気を使用するトイレとタンク仕様のトイレを確認し、使用するトイレ／使用制限するトイレを決めておく、トイレ用水の備蓄方法の確認、簡易トイレの使用方法、飲み水の備蓄の確認をしておく、手洗いはアルコール消毒にする、などの意見があがりました。また、停電も起きた時に備え、非常用電源位置の確認、懐中電灯の確認、など意見があがりました。結局、台風の影響はなく、停電も断水も起こりませんでしたが、非常事態への備えと点検を行う良い機会となりました。

こども心療科

心理療法士　我喜屋　良行

10 月になり、今年もハロウィンの季節がやってきました。こども心療科でもハロウィンのお化けたちが子どもたちを出迎えてくれています。

こども心療科を初めて受診される方は、子どもたちも保護者の皆さんも、「どんなことをするのか／聞かれるのか」という不安を抱えながら来てくださいます。そのような不安や緊張を少しでも和らげるために、季節ごとのイベントに合わせた飾りつけをしたり、診察の流れやプレイルームの雰囲気が分かるポスターを掲示したりしています。これからも安心安全を感じながら来院してもらえるように、スタッフ全員で患者さんをお迎えしたいと思います。